



循環器科

理事 国吉 和重

2023 年 循環器生理検査件数

	心 電 図	負荷心電図	ホルター心電図	血圧脈波検査	心エコー図
1 月	236	1	1	6	30
2 月	188	2	2	6	20
3 月	222	4	2	12	29
4 月	231	0	3	13	25
5 月	290	3	1	9	52
6 月	293	2	5	10	31
7 月	292	1	1	9	22
8 月	219	0	1	5	31
9 月	244	0	2	4	15
10 月	205	0	1	11	19
11 月	241	0	1	10	23
12 月	238	1	5	10	22
合計	2899	14	25	105	319

負荷心電図：ダブルマスター負荷心電図

麻 酔 科

理事 国吉 和重
非常勤医師 山本 真也
非常勤医師 杉本 清治

2023 年 全身麻酔症例

	気管内挿管	マ ス ク	合 計
消 化 器 外 科	40	0	40
整 形 外 科	9	1	10
泌 尿 器 科	16	1	17
合 計	65	2	67

ペインクリニック

頸・胸部硬膜外ブロック 18 件
星状神経節ブロック 4 件

消化器内科

消化器内科年報

集計対象期間：2023 年
集計日時：2024/3/5 08:40:51

*= 処置から集計
診断名 = 総合診断から集計

検 査 内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
上部内視鏡検査（一般）	259	268	286	306	306	347	332	328	308	363	353	324	3780
上部内視鏡検査（処置目的）	4	0	4	3	3	5	2	4	3	3	2	1	34
上部内視鏡検査（ドック用）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
EIS・EVL	0	0	0	0	6	5	4	3	1	2	5	2	28
食道内視鏡の粘膜下層切開剥離術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PEG	0	4	2	0	2	0	0	1	1	1	0	3	14
胃 ESD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胃 ポリペクトミー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胃 異物除去	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胃 止血術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下部内視鏡検査（一般）	150	158	174	168	164	187	160	185	155	187	191	205	2084
下部内視鏡検査（処置目的）	0	3	4	0	3	2	4	3	6	5	6	7	43
下部内視鏡検査（ドック用）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大腸 EMR	0	0	0	0	1	0	3	0	1	0	3	2	10
大腸 ポリペクトミー	2	2	1	1	4	4	6	2	4	5	9	7	47
ERCP	3	3	4	1	1	4	1	0	5	1	0	1	24
小腸内視鏡検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
気管支鏡検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
嚥下内視鏡検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	418	438	475	479	490	554	512	526	484	567	569	553	6065
EIS・EVL*	0	0	0	0	6	6	4	2	1	2	5	2	28
食道粘膜切除*	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食道内視鏡の粘膜下層切開剥離術*	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	6
食道 止血術*	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胃 ポリペクトミー*	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
胃 ESD*	2	0	1	3	0	0	1	3	1	1	2	0	14
胃 止血術*	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	0	5
胃 拡張術*	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胃 異物除去*	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
PEG*	0	4	2	0	1	1	0	1	1	1	0	3	14
大腸 ポリペクトミー*	36	34	37	32	31	33	33	40	37	39	48	52	452

大腸 EMR*	7	1	11	9	13	5	5	3	12	13	17	18	114
EST*	2	2	3	0	0	2	1	0	3	0	0	1	14
食道癌	2	1	1	1	2	1	0	1	1	2	0	1	13
進行胃癌	1	0	0	4	2	4	0	0	2	0	1	0	14
早期胃癌	5	1	2	6	1	2	3	4	3	4	5	2	38
大腸 進行大腸癌	2	4	1	1	2	0	3	3	0	1	3	6	26
大腸 早期大腸癌	1	0	5	2	4	3	0	1	3	1	4	2	26
潰瘍性大腸炎	1	4	2	7	7	9	23	6	7	7	11	4	88
クローン病	1	0	1	0	0	2	2	2	1	6	3	4	22
虚血性腸炎	1	6	7	5	2	3	4	2	2	2	2	0	36
感染性腸炎	0	1	3	0	1	0	1	1	0	0	1	0	8

#講演・座長等

院長 國吉 宣俊

開催日	催 事 名	会 場	役割	演 題
2023 年 3 月 9 日	Ulcerative Colitis Seminar	ザクラウンパレス 新阪急高知	講演	高齢発症潰瘍性大腸炎の臨床的特徴と中等症以上に対する治療法の検討（当院における潰瘍性大腸炎の現状を踏まえて）
2023 年 10 月 25 日	JAK 阻害薬を考える会 in 高知	ザクラウンパレス 新阪急高知	座長	
2023 年 11 月 15 日	高知 IBD 医療連携講演会	国 吉 病 院	座長	これからの地域 IBD 医療連携について 国吉病院の IBD 診療体制を含めて
2023 年 12 月 23 日	Hypertension Symposium in Kochi	高知パレス ホテル	座長	

内視鏡センター長 山田 高義

開催日	催 事 名	会 場	役割	演 題
2023 年 6 月 17 日	第 119 回日本消化器病学会四国支部例会	レ ク ザ ム ホール	座長	
2023 年 9 月 17 日	日本消化器病学会四国支部第 100 回市民公開講座	かるぽーと	講演	たまるか！消化器がんの最新治療「内視鏡治療」
2023 年 9 月 27 日	吾川郡医師会講演会	亀の井ホテル	講演	GERD 診療ガイドライン 2021 を踏まえた最新の逆流性食道炎治療
2023 年 12 月 16 日	国吉病院第 19 回市民健康講座	国 吉 病 院	講演	はやく見つけて治そう早期胃がんー予防から内視鏡治療までー

IBDセンター長 一森 俊樹

開催日	催 事 名	会 場	役割	演 題
2023 年 3 月 19 日	IBD Expert Seminar	ザクラウンパレス 新阪急高知	座長	潰瘍性大腸炎の治療の進歩と展望
2023 年 4 月 19 日	高知 Next IBD Dr. Meeting	ラ・ヴィータ	座長	炎症性腸疾患における Treat to target の現状と課題
2023 年 7 月 27 日	Ulcerative Colitis Clinical Practice Seminar in KOCHI	ザクラウンパレス 新阪急高知	座長	潰瘍性大腸炎の治療戦略～外来での治療最適化を目指して～
2023 年 8 月 17 日	IBD ネットフォーラム	国 吉 病 院	座長	IBD 専門施設：診療と運営のノウハウ
2023 年 9 月 4 日	IBD Seminar by Abbvie	国 吉 病 院	座長	0 から始める IBD センター
2023 年 9 月 7 日	カログラ錠 1 周年 記念講演会 in 高知	OKAMURA 帯屋町ビル セ ミ ナ ー ルーム COMMUBA	演者	カログラ発売を踏まえた病態生理から考える UC の治療戦略について
2023 年 9 月 13 日	IBD Clinical Seminar in Kochi	ラ・ヴィータ	座長	難治性潰瘍性大腸炎における当院の治療戦略～ IBD センターの役割を含めて～
2023 年 9 月 21 日	令和 5 年病院薬剤師会 9 月例会	WEB 配信 ちより街テラス	講演	IBD センターの取り組み～ステロイド製剤の使い分けについて～
2023 年 10 月 11 日	リンヴォッククローン病 適応追加 記念 Web 講演会 in 高知	ラ・ヴィータ	座長	クローン病の実臨床から考える経口 JAK 阻害剤「リンヴォック」使用のタイミング
2023 年 10 月 19 日	Ulcerative Colitis Seminar ～最適な治療について考える～	WEB 配信	座長	エビデンスから探る潰瘍性大腸炎治療におけるベドリズマブのポジショニング
2023 年 10 月 25 日	JAK 阻害剤を考える会 in 高知	ザクラウンパレス 新阪急高知	演者	潰瘍性大腸炎の基本治療～非難治例を中心に～
2023 年 11 月 15 日	高知 IBD 医療連携講演会	国 吉 病 院	演者	これからの地域 IBD 医療連携について～国吉病院の IBD 診療体制を含めて～
2024 年 3 月 23 日	IBD 診療セミナー	ザクラウンパレス 新阪急高知	座長	医師から見た潰瘍性大腸炎の治療とトータルケア

整 形 外 科

整形外科部長 谷脇 祥通

【手術件数】

術 式	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1. 脊椎手術													
2. 股関節手術													
人工股関節置換術									1				1
人工骨頭置換術													
骨折観血的手術													
3. 膝関節手術													
骨折観血的手術													
4. 足関節・足部手術													
関節固定術 / 形成手術													
骨折観血的手術	1												1
その他	1	1				1	1						4
5. 肩・肘関節手術													
人工肘関節置換術													
骨折観血的手術	1												1
その他													
6. 手外科・末梢神経手術													
関節鏡下手根管開放術	1	4	6	5	6	5	1		4	3	2	3	40
神経剥離 / 縫合術		1			1				1	1			4
腱鞘切開術	10	9	6	6	9	10	5	4	6	8	5	9	87
腱剥離 / 移行術 / 腱縫合					1	2					2		5
骨折観血的手術	3	2	1	6	2	8	2	3		3	4	3	37
靱帯縫合術						1			1				2
関節固定術 / 形成手術						1	1				2		4
関節受授動術					1				2				3
滑膜切除術												2	2
デュピュイトラン拘縮手術							1		1				2
その他	1		1	1	1			2		2			8
7. 骨・軟部腫瘍手術													
軟部腫瘍切除術	1		1	1	1			2		2			8
骨腫瘍切除術													
合 計	18	19	15	19	22	29	12	12	15	17	15	20	213

【整形外科延べ患者数】

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
外来	598	579	621	555	606	655	590	590	600	591	577	564	7126
入院	66	87	58	8	38	74	65	55	50	53	101	144	799

【学会活動】

日本手外科学会代議員、カリキュラム委員

日本マイクロサージャリー学会評議員

中部日本整形外科災害外科学会評議員

外科・消化器外科

消化器外科部長 木下 貴史

外科・消化器外科手術件数 2023. 1. 1 ～ 2023. 12. 31

術 式 名 称	件 数
腹腔鏡下胆嚢摘出術	20
腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴うもの）	8
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	5
腹腔鏡下結腸切除術（小範囲切除、結腸半側切除）	3
腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）	2
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切断術）	1
腹腔鏡下人工肛門造設術	2
結腸切除術（小範囲切除）	1
腹壁膿瘍切開術	1
胆嚢外瘻造設術	3
肝内胆管外瘻造設術（経皮経肝）	1
胆管切開結石摘出術（チューブ挿入を含む）（胆嚢摘出を含む）	1
内視鏡的胆道結石除去術（胆道碎石術を伴う）	2
経皮的胆管ドレナージ術	1
経皮的肝膿瘍ドレナージ術	1
胸水・腹水濾過濃縮再静注法	10
胸腔内（胸膜内）血腫除去術	1
気管切開術	3
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	7
合 計	73

外科・消化器外科 入院延べ患者数	460
------------------	-----

泌 尿 器 科

泌尿器科部長 渡邊 裕修

入院件数：40例

【手術件数】

診 療 行 為	件 数
経尿道的尿管ステント留置術	11
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用）	11
創傷処理（筋肉、臓器に達しない）（長径 5 cm未満）	5
ハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）	1
陰嚢水腫手術（その他）	1
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	1
精巣摘出術	1
尿道異物摘出術（前部尿道）	1
連続携行式腹膜灌流用カテーテル腹腔内留置術	1

【検査件数】

診 療 行 為	件 数
残尿測定検査（超音波によるもの）	346
超音波検査（断層撮影法） 胸腹部・その他	195
膀胱尿道ファイバースコピー	73
前立腺針生検法（その他）	7
尿流測定	7

緩和ケア内科

緩和ケア内科部長 渡邊 裕修

緩和ケア病棟（2023 年 1 月～ 12 月末）

年間入院患者数	年間退棟患者数	予 定 外 入 院 数	緊急入院初期加算
122	135	58	1

退院内訳

死 亡 退 院	生 存 退 棟
101	34

生存退棟内訳	院内一般病棟	13
	院内療養病棟	0
	他院転院	10
	自宅 / 自宅に準ずる施設	11

画像診断室

画像診断室室長 小松 幸久

読影数 2023

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
一般	401	405	429	450	518	507	457	396	459	408	391	384	5205
C T	204	223	214	231	261	236	269	284	235	261	243	232	2893
M R I	63	65	59	50	73	68	68	60	63	62	64	69	764
特殊撮影	25	22	26	40	41	45	32	31	34	30	19	32	377
総数	693	715	728	771	893	856	826	771	791	761	717	717	9239

外来紹介読影数 2023

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
田村クリニック 胃腸科	2	3	2	6	3	5	3	5	2	6	2	3	42
クグリーニックス グリーニックス	0	2	0	2	2	3	3	4	1	1	2	2	22
横田クリニック	0	0	2	5	3	2	0	0	0	0	0	0	12
松岡クリニック	1	2	1	0	0	1	1	0	0	2	2	0	10
藤戸病院	0	2	0	0	0	0	1	0	0	2	1	2	8
藤田クリニック	0	0	0	1	1	0	2	0	1	0	0	0	5
くすのせクリニック 内科・神経内科	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
うぐるす内科クリニック	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
高知見元医院	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
帯屋町ハートクリニック	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
総数	3	12	5	14	10	12	10	9	4	11	7	7	104

看護部

前看護部長 森田 智子

2023年 看護職員の採用者数と退職者数（人）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
入職	看	0	1	1	8	1	1	2	0	2	0	0	0	16
	准	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	補助	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3
退職	看	2	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	7
	准	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	補助	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3

看護部委員会活動報告（2023年度）

1. 看護教育委員会

委員長：川田美佐 副委員長：松田恭子

目標：1. クリニカル・ラダーの運用を開始する

2. コールサイン対応の強化

3. 看護研究の発表を行う

成果：1) JNA ラダーに基づいた当院のクリニカル・ラダーの運用を開始し、ラダーレベルⅠを2人認定できた。今回は2部署での認定となったが、他の部署からも必要性や今後の取り組みに積極的な意見が聞かれている。認定審査を受けるスタッフ、それを指導するスタッフ、評価者、それぞれが初めてであり手順の確認やスタッフの指導などに苦労していた。いくつかの修正も必要であったが、今後とも運用しながら洗練化していく必要がある。

2) 「院内緊急コールと急変時の対応」マニュアルの作成ができ、そ

れを基に2回訓練が実施できたことで、急変に対する迅速で自立した行動意識が高まったと感じている。

- 3) 5年ぶりに院内研究発表会が開催できた。研究計画書を作成し研究に取り組む期間を2年間としたことで、研究スケジュールに余裕ができ、充実した取り組みができた。

課題 : クリニカル・ラダー認定の継続に取り組む。教育委員会は管理者とともにクリニカル・ラダー認定審査の受審者増加を促進するようサポートしていく必要がある。また、急変対応の質を上げるために、コールナイン訓練の内容を見直していくことが必要。そのためには、院外研修へ参加し、知識・技術を習得することが重要となるため委員会として院外研修を教育計画に組み込んでいく。新型コロナウイルス感染症への対策として、研修会（院内・院外）の縮小が続いたが、今後は感染状況を判断しながら教育計画の企画・運営・方法を検討する必要がある。

2. 看護記録委員会

委員長：小田真美 副委員長：大谷貴三江

- 目標 : 1. 看護記録の効率化を図る
2. 看護診断の精度を向上させる
3. 新しい監査表を理解し活用できる

成果 : 1) 検温表観察項目の活用を促進し、各病棟ともに観察項目の活用はできている。

重複記録はしないように啓発を行い、記録による時間外勤務は減少している。

- 2) 委員会では看護診断について活発に意見があがり、看護診断の精度向上の重要性が周知できてきたと思われる。各部署で看護診断から看護計画立案への導き方の学習に取り組み、ゴードンから看護診断決定の流れは定着しつつある。
- 3) 看護診断監査表を作成し委員会で監査結果の報告ができた。毎月2名対象に監査を行い、下半期は「×」の件数が減少した。

課題 : 看護師負担軽減検討委員会と協働で行った看護記録時間調査結果を踏まえ、来年度は看護記録内容の見直しが必要である。看護記録に簡素化は重要であるが、アセスメント不足にならないよう、アセス

メント能力の向上も今後の課題である。また、看護診断の精度を上げる取り組みも今後も継続した課題である。

3. 医療安全リンクナース会

委員長：森岡佐知 副委員長：近澤千恵

目標 ：1. 認知症高齢者の転倒の低減を図る
2. 確認不足による患者間違いを起こさない
3. 部署のインシデントの把握、再発防止への取り組み、対策の周知徹底を行う

成果 ：1) 転倒・転落での3 b以上のアクシデント事例はなかったが、予防的介入ではなく転倒後の対策を強化する形となっていた。転倒・転落に対して、リンクナース会メンバーにeラーニング視聴の促進を行ったが、実践での活用までには至らなかった。
2) 確認不足による患者間違いは2件。退院処理に関するものと配膳間違いであり影響度レベルは1であった。バーコード認証の未実施でのインシデントはなく、今後も各部署での啓発を継続していく必要がある。
3) 各部署が積極的にインシデントの分析に取り組み、リンクナース会での周知が行えた。再発事例に対して、医療安全管理委員会と連携し再発防止策の提案を行った。医療安全情報などを基に当院でも起こり得る内容の周知・注意喚起を行ない看護スタッフへの教育ができた。また、以前よりも活発な意見が出るようになった。

2023 年度看護部インシデント・アクシデント集計

- ・インシデント・アクシデント報告件数 213 件（重複は含まない）前年度 198 件
- ・部署別では、外来：16 件、IBD：0 件、内視鏡：11 件、Ast：113 件、Bst：30 件、緩和：40 件
- ・影響度レベル別は、0：5 件、1：56 件、2：121 件、3a：31 件、3 b：0 件、4：0 件、5：0 件
- ・項目別では転倒・転落が 70 件、次いで与薬（内服・外用）が 22 件、チューブ管理 17 件、輸液 17 件。転倒・転落は全体の 33%であり、前年度 30% に対し増加していた。

課題 ：転倒・転落に対して、対策の強化を図り、転倒によるアクシデン

ト事例を発生させない取り組みをしていく。また、インシデントの再発事例に対して分析を行い改善策を明確にして周知徹底していく。またリンクナースが主となり、各部署での医療安全教育が行えるよう支援していく必要がある。

4. 感染対策リンクナース会

委員長：森あゆみ 副委員長：小田真美

目標 ：1. 感染に関する知識の習得と向上を図る
2. 手指衛生遵守に向けた取り組みを行い結果が出せる
3. 部署別で課題問題を挙げ、解決に向けて取り組むことで感染対策上の問題解決や意識付けができる

成果 ：1) 全体的な研修に関しては、eラーニングでの研修を上半期に実施できた。リンクナース会では2か月に1回勉強会を計画し実施できた。各部署でもリンクナースとして勉強会が実施できた。
2) 各部署で使用している手指消毒薬の使用量を毎月測定し、適切なタイミングと方法で手指衛生が実施できているか直接観察を行い各部署にフィードバックし指導を行った。部署内でラウンドを実施できた部署もあった。
3) 部署毎の問題点に対して勉強会やアンケートなどを実施し、改善に向け取り組みが行えた。

課題 ：研修内容の理解や、現場で活かしているかの確認ができるような取り組みも必要と考える。委員会内での勉強会は、内容の充実と、内容に関する活発な意見交換ができるようにリンクナースのスキルアップが必要である。

手指消毒薬の使用量が目標達成に至っていない部署が多かった為、その原因を分析し次年度に向けた取り組みが必要である。また、適切なタイミングでの使用に向けた取り組みも今後の課題でもある。

各部署の感染上の問題解決への取り組みは良い結果に結びついたものもあるが、病院全体としての問題もあり今後の課題である。

5. 褥瘡対策委員会

委員長：岡本医師 副委員長：大谷貴三江

目標 ：1. 褥瘡対策に関する診療計画書の作成を1週間以内に作成すること

で褥瘡リスクのある患者に早期に介入し発生を防止する

2. 早期治癒が出来るように援助する
3. カンファレンスの充実
4. 褥瘡回診を最低 3 か月に 1 回実施する

成果 : 1) 入院・転入者に対して褥瘡に対する診療計画書の作成が 1 週間以内にはできてないことが多い。看護師は計画立案できていても多職種に対しての連絡ができてない。

2) 治療に対しては主治医の指示によるため画一的な処置を行うことが多かったが、瘡の状態をみて医師に相談できるようになってきた。褥瘡対策に関する意識が向上してきた結果と評価できる。

3) 実際に処置や瘡の状態を見ることはできないがカンファレンスにて意見交換ができるようになり、その後のケアに活かせるようになってきている。

4) 2 回の実施しかできなかったが、実際を見ることで指摘や指導が受けられ、良い機会となった。

全体のまとめ

1 年間の全体の新規褥瘡発生率は 2.6%であった。前年度は 1.93%。

各病棟の新規発生率は、A ステーションは 0.75%、B ステーションは 11.5%、緩和ケア病棟は 2.0%であった。

課題 : 当院は皮膚排泄ケア認定看護師がいないので次年度は外部のリソースを活用して研修を企画し、褥瘡に対する知識・技術の向上を図るようにしたい。

6. 看護師負担軽減検討委員会

委員長：中山亜希 副委員長：吉村美千代

- 目標 : 1. 看護記録時間の短縮化
2. 看護ケアの統一化
3. 看護師の身体的負担軽減

成果 : 1) 看護記録委員会と連携し看護記録の短縮化に取り組み、看護記録にかかる時間調査（日勤帯 3 日間）を実施した。全体で 450 分の短縮という結果であった。また、入退院が多い A ステーションでは時間外記録時間が 700 分短縮という結果が出た。看護師一人ひとりが看護記録について決められた方法で記録するという意識を

持つ、意識を変えることの努力が成果につながったと考える。

- 2) 尿取りパッド（フレーヌケア）の完全導入により患者の睡眠の質の向上、看護師の身体的負担の軽減につながった。
- 3) ノーリフティングケア推進とボディメカニクス活用を目的に、理学療法士による体験演習型研修を実施した。理学療法士の専門性の高い知識・技術を分かりやすく学ぶことができ、ボディメカニクスの重要性を理解できた。

課題：看護記録時間においては、体温表を活用し看護記録への重複記載をしないというルールを意識を持つこと、意識を変えることが重要であり、スタッフへ浸透させる必要がある。看護記録委員会と連携し、記録監査でのチェック項目に追加する等、継続的に啓発に努めることが重要。

ノーリフティングケアの推進は、身体的負担軽減対策として重要であり、それにより職場環境改善につながることを期待できるため職員の意識向上に向けての取り組みが必要。

7. 新人看護師教育部会

委員長：清水梢 副委員長：光井麻紀

- 目標：1. 新人看護師の離職率 0%
2. 看護技術評価表の運用基準・手順が定着する

- 成果：1) 入職者 15 名中 2 名が離職となった。業務内容や業務のスピードに適応できなかったことが退職理由であったが、プリセプティのペースに合わせての指導が出来てなかったことが離職の原因となったと考えられる。12 月にプリセプターを対象にアンケートを実施し、役割遂行に影響する要因や、役割遂行の自己評価を調査した結果、アンケート内容の項目を定期的に確認しながら役割遂行していくことにより、更により良い指導への意識付けができると思われる。
- 2) 看護技術評価表を活用し、手順については一度動画を視聴した後で説明、指導を行うことでイメージが付きやすくスムーズな指導が行えている。

課題：プリセプターに関する研修を、役割を担う前に受講する仕組みや、手引きの活用・指導に関する評価やフィードバック等の支援が課題

である。

8. クリニカルパス委員会

委員長：戸梶雪加 副委員長：清水梢

- 目標 ：1. 必要なパスを作成・登録する
 2. 適切なパスの運用をする
 3. 必要時に応じて修正と洗練化をする

- 成果 ：1) 「オンボー」・「大腸 ESD」のパスを作成・登録した。
 2) 使用抜かりが1件あり100%の使用率とはならなかった。
 3) 「ポリペク」「ESD」の改訂を行った。

課題 ：パス使用状況の категория が不明瞭なため改訂が必要
 パスの既存分の見直し・改定が必要

9. 看護補助者会

委員長：有村葵 副委員長：井上健司

- 目標 ：1. 役割・業務範囲を理解できる
 2. 安全で質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供できる

- 成果 ：1) 慣れが生じ自己判断で業務を行うことがあったがマニュアルを周知することで業務範囲を理解でき業務基準に沿って業務ができるようになった。
 2) 看護補助者としての役割・範囲を意識し看護師の指示のもと安全に業務ができた。計画していた研修は各自受講、伝達講習を実施できた。eラーニングやナーシングメゾットを活用することで基本の手順が理解でき介護の質向上に繋がりケアに活かすことができた。

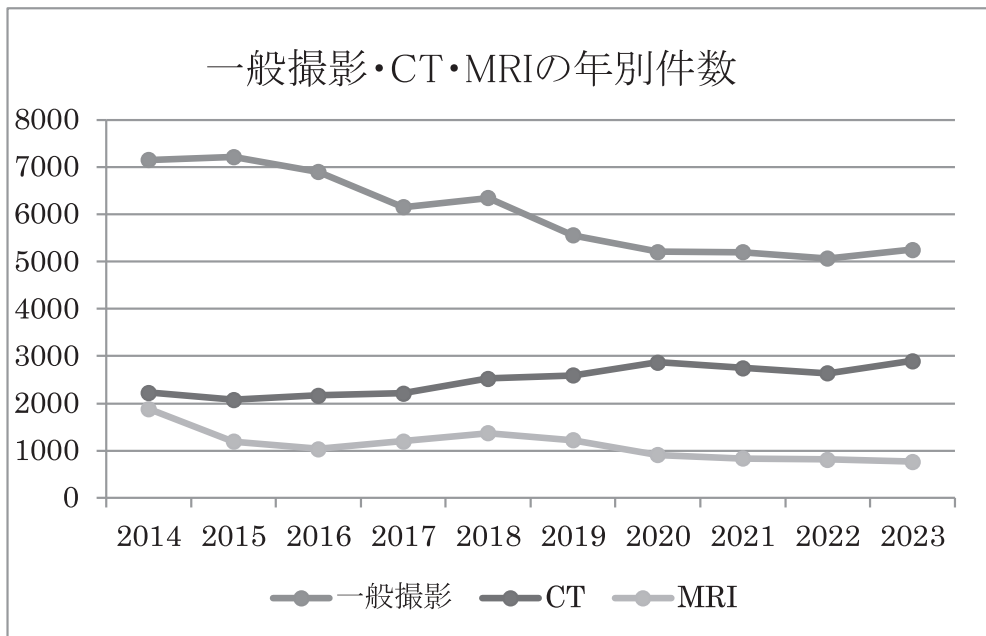
課題 ：基準は理解しているが業務が煩雑になる事で看護師への確認ができないことがあるため、徹底していく必要がある。また、日常業務をするにあたって情報共有ができていないと感じている補助者がいて個人差が生じているため、意見交換の方法を検討する必要がある。

放射線科 ～2023年・業務報告～

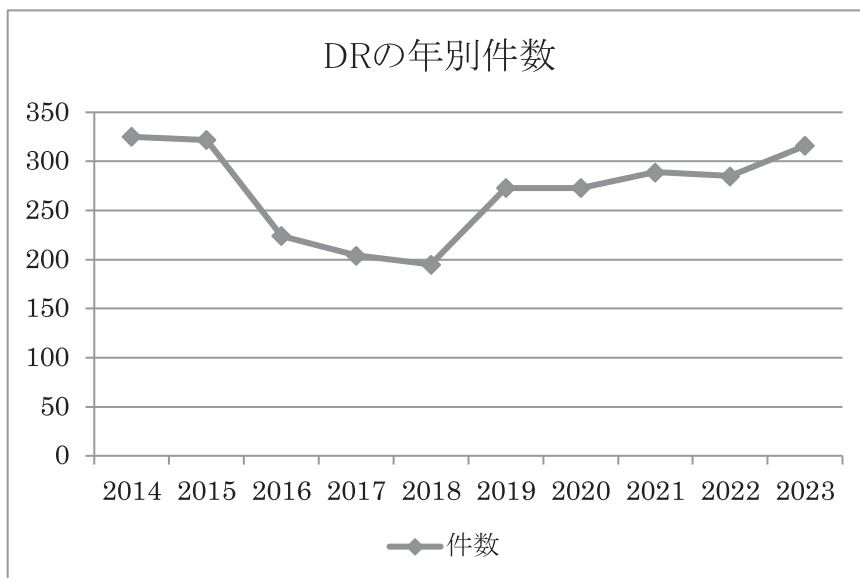
科長 岡崎 美紀

1. 年別撮影件数の推移

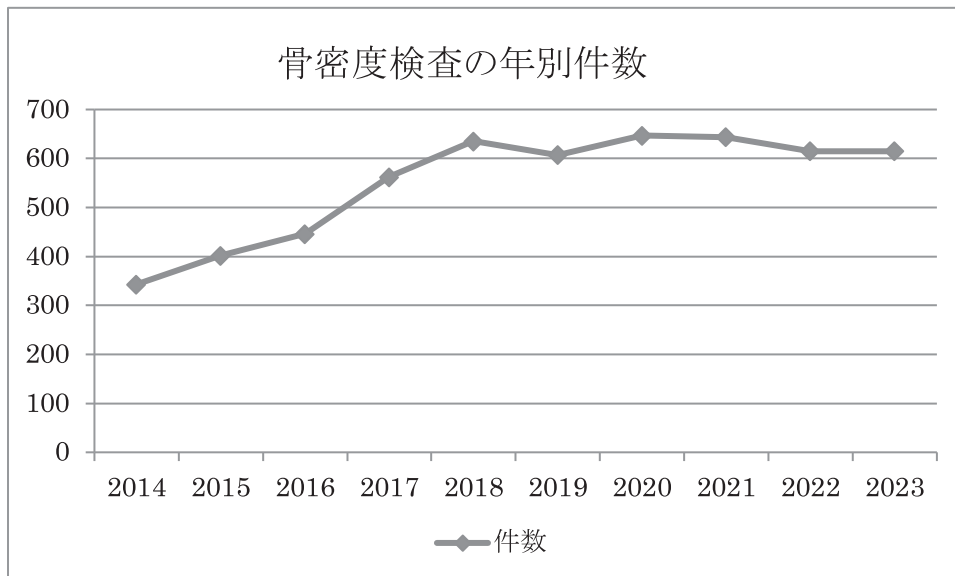
1) 一般撮影・CT・MRI の年別撮影件数



2) DR の年度別撮影件数



3) 骨密度検査数（2013 より本格稼働）（2017 年 8 月～、腰椎・股関節部位での検査が主になった）



2. 外部被曝線量測定結果

放射性物質による内部・外部被ばくはなく、業務以外の無駄な被ばくもなかった。年間被ばく量0.3mSv以上は3名であった。今後も継続し、被ばくの低減に努めたい。

	A Dr.	B Dr.	C Ns
2022年合計	0.8	0.5	0.3

表1. 年間外部被ばく線量（0.3mSv以上）（単位=mSv）

3. まとめと今後の課題

2023年は、患者様の被ばくの低減と画質の向上の為、CR装置をF P Dシステムに更新しました。装置7台の保守点検、日常点検をしっかりと行い、設備の保守状況等を確認しました。放射線被ばく防護については、防護用具の点検、必要時の着用を推奨し、放射線防護や放射線被ばくの低減に努めました。

今後も各モダリティでの撮影技術をディスカッションし、新しい情報を取り入れ、さらなる良質な画像の提供に努めたいと考えています。機器の安全管理や感染対策に取り組み、医師、看護師と連携し、安心安全な検査を行えるよう日々努めてまいります。

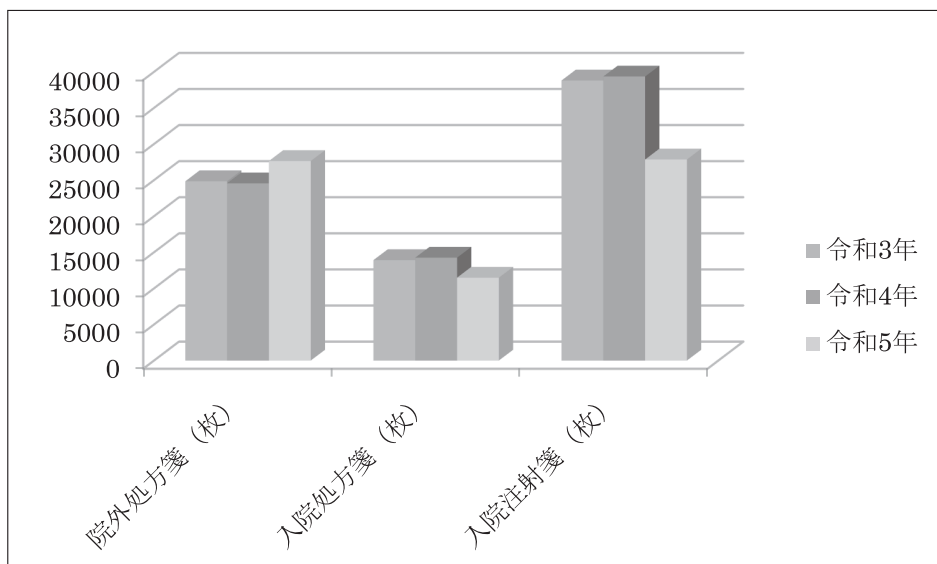
薬 剤 科

科長 中島 浩喜

今年度は薬剤師 1 名、助手 1 名が入れ替わり、現在は薬剤師 4 名、パート 1 名、助手 4 名で、入院、発熱外来などの調剤、バイオ製剤やケモ調剤、病棟業務を実施しております。各薬剤の品薄状況はわかりませんが、IBD センターでのバイオ製剤と内視鏡センターでの腸管洗浄剤などの使用量が大幅に増え、薬剤購入金額が大幅増となりました。また、調剤薬局との連携強化やポリファーマシーに積極的に取り組んでおります。

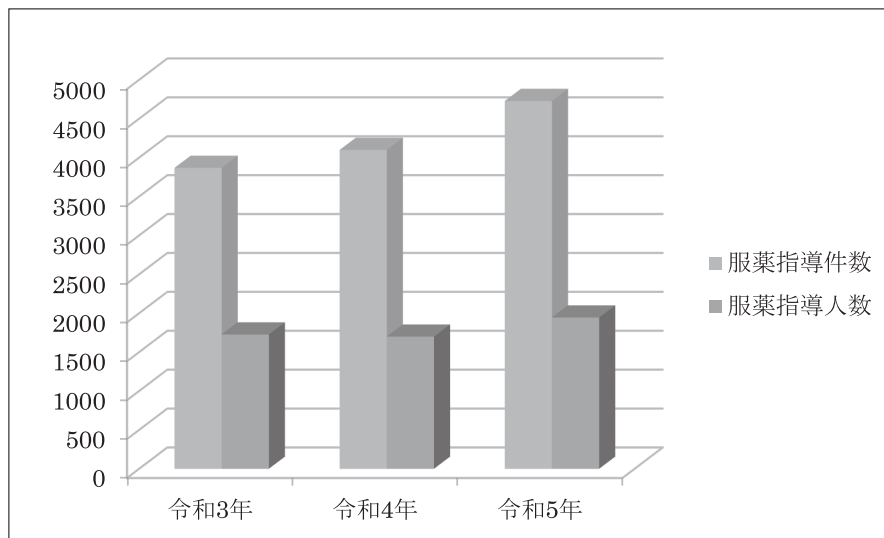
★入院・外来処方箋枚数の推移

	院外処方箋 (枚)	入院処方箋 (枚)	入院注射箋 (枚)
令和 3 年	24844	13914	38800
令和 4 年	24547	14251	39349
令和 5 年	27646	11480	27854



★薬剤管理指導件数・人数の推移

	服薬指導件数	服薬指導人数
令和 3 年	3868	1726
令和 4 年	4099	1699
令和 5 年	4728	1944

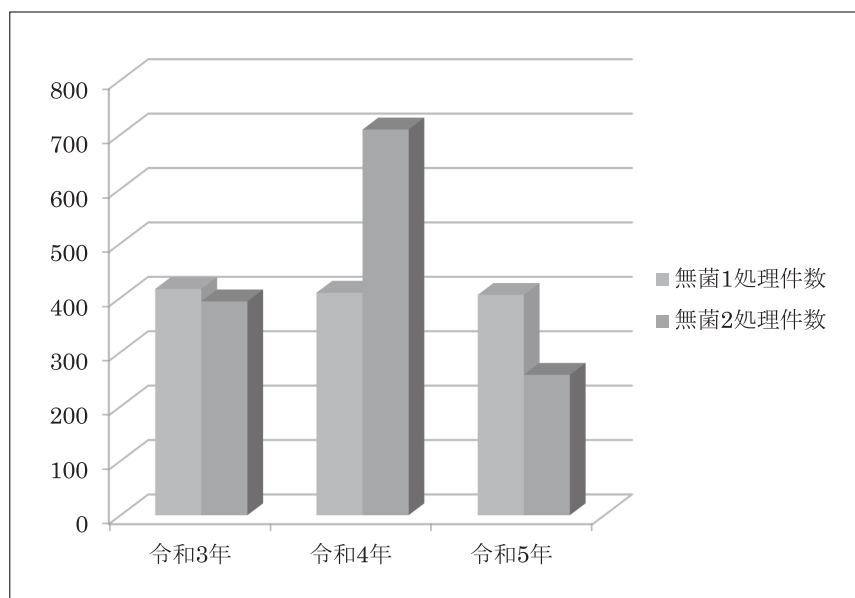


★薬剤管理指導加算内識別件数の推移

	加算 1 ハイリスク薬	加算 2 ハイリスク薬以外	退院時指導加算	麻薬指導加算
令和 3 年	1678	1304	434	51
令和 4 年	1845	1188	398	85
令和 5 年	2071	1148	548	78

★無菌製剤処理加算1・2の件数の推移

	無菌 1 処理件数	無菌 2 処理件数
令和 3 年	416	393
令和 4 年	409	709
令和 5 年	405	258



★病棟薬剤業務実施加算件数と実施平均時間の推移

	件数 (件)	実施平均時間 A 病棟 (時間) / 週	実施平均時間 B 病棟 (時間) / 週
令和 3 年	3 4 1 6	2 3 . 0 3	2 1 . 5 6
令和 4 年	3 0 3 3	2 2 . 2 5	2 1 . 4 8
令和 5 年	3 7 6 7	2 5 . 0 5	2 1 . 5 0

栄 養 科

科長 二宮 利江

2023 年の栄養指導件数は、入院・外来を合わせて 905 件でした。昨年と比較して 15 件増加、1 か月の平均実施件数は 75 件でした。指導件数で最も多い疾患は昨年と同じく糖尿病でした。糖尿病の治療には、運動療法、薬物療法と合わせて食事療法が必要です。

栄養指導は、医師の指示のもと管理栄養士が実施しています。糖尿病、脂質異常症など治療中の患者様で、食事療法が必要なことは理解しているけれど、ついつい食べ過ぎてしまうなど、食生活で気になることがある方は主治医の先生にお声をおかけ下さい。長期的に食事療法に取り組める工夫を管理栄養士と一緒に検討させていただきます。

1. 2023年 栄養指導件数

	外 来	入 院	合 計
1月	28	60	88
2月	39	45	84
3月	51	36	87
4月	48	51	99
5月	36	46	82
6月	34	34	68
7月	36	40	76
8月	32	43	75
9月	34	32	66
10月	32	32	64
11月	30	29	59
12月	27	30	57
合 計	427	478	905

2. 2023年 特別食別栄養指導件数

	外 来	入 院	合 計
糖 尿 病 食	222	123	345
心 臓 食	16	84	100
腎 臓 食	25	16	41
脂質異常症食	74	17	91
潰 瘍 食	2	42	44
肝 臓 食	6	14	20
膵 臓 食	4	24	28
低 残 渣 食	6	36	42
胃 切 食	1	2	3
肝 不 全 食	3	14	17
そ の 他	68	106	174
合 計	427	478	905

●外来栄養指導について

所要時間：1回 20 ～ 30 分程度

内容：①ご家庭での食事内容等についての聞き取り。

②問題点を見つける。

③取り組んでいただく内容について確認。

※基本的に外来受診時に予約をしていただいて、次回の受診時に栄養指導をさせていただきます。

※1ヶ月に1回の頻度で栄養指導が実施できます。

臨床検査科

科長 伊藤 明美

2023年度は5月に新型コロナウイルスが5類感染症となり、前年度よりコロナの検査数は減少したものの、感染動向に比例して検査数も増加したり減少したりの繰り返しでした。インフルエンザの流行もあり、コロナとインフルエンザの同時測定キットを導入しました。

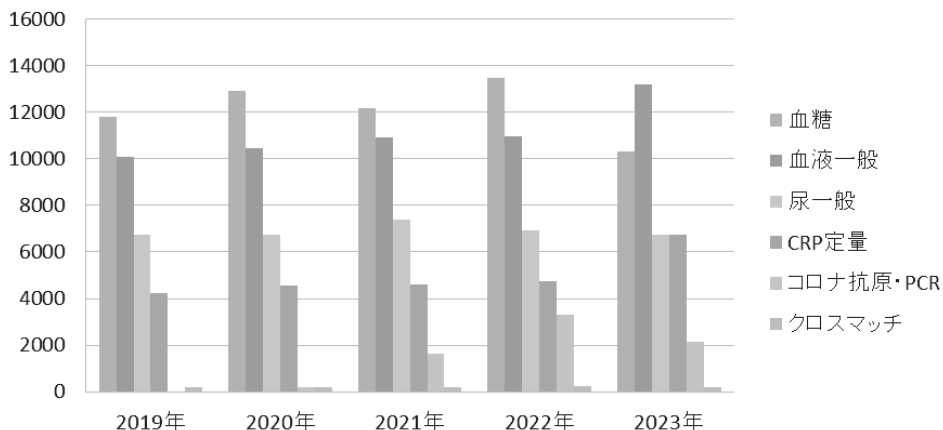
引き続き感染情報の素早い発信や情報共有に努めていきたいと思います。

2024年度は新たな検査機器の導入に伴い院内での測定可能な検査項目を増やし、より迅速な検査データの提供に貢献できるよう取り組んでまいります。

各分野での院内最多項目

	血 糖	血液一般	尿一般	CRP 定量	コロナ抗原・PCR	クロスマッチ
2019 年	11811	10072	6735	4214		198
2020 年	12940	10467	6743	4539	211	199
2021 年	12183	10923	7391	4598	1656	178
2022 年	13488	10970	6939	4760	3322	229
2023 年	10297	13206	6764	6733	2162	195

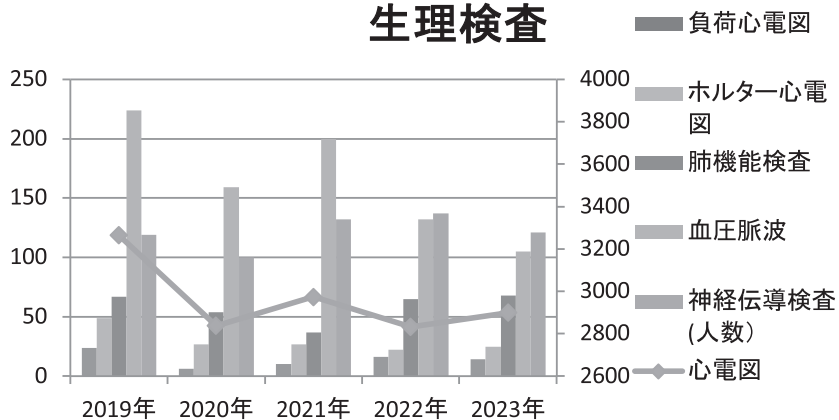
検体検査



生理検査

	心電図	負荷心電図	ホルター心電図	肺機能検査	血圧脈波	睡眠時無呼吸検査	神経伝導検査(人数)
2019年	3264	24	49	67	224	15	119
2020年	2838	6	27	54	159	10	100
2021年	2974	10	27	37	200	12	132
2022年	2832	16	22	65	132	5	137
2023年	2899	14	25	68	105	4	121

生理検査

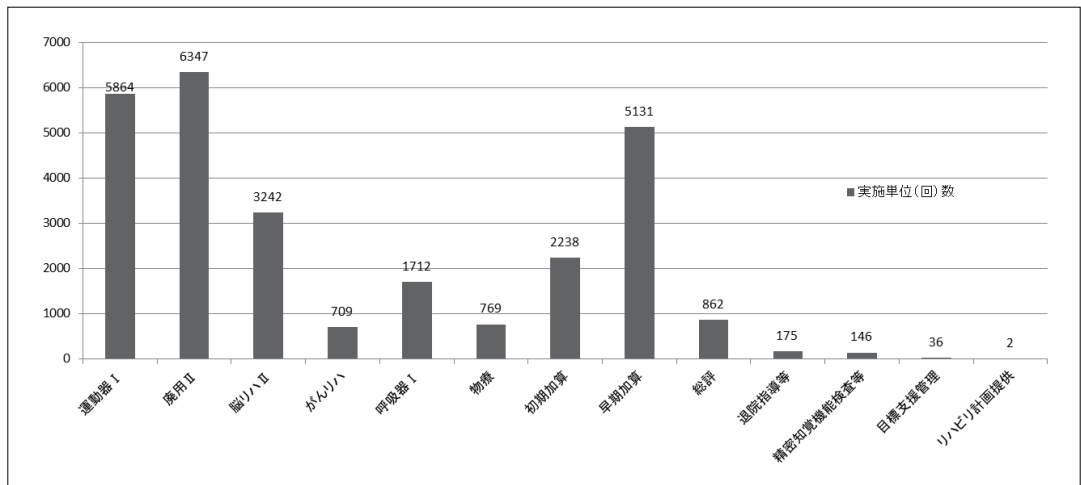


リハビリテーション科

科長 前野 加奈恵

令和5年のトピックスは【コロナ5類移行】です。これまでのような社会活動制限が緩和され、コロナ前の生活が戻りつつあります。しかし、病院内でのコロナ対応は5類移行前と変わらず継続されています。社会全体のコロナ対応と院内コロナ対応には格差が大きく、入院患者・ご家族様にはご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願い致します。

1. 令和5年リハビリテーション実施報告



2. 令和5年リハビリ介入前後の Barthel Index (B. I.) 平均値変化

	自宅退院	施設退院	転院
入院前（聞き取り）	85.6	57.1	60.6
リハビリ介入時	58.6	30.7	22.2
リハビリ終了時	81.0	47.4	28.9

/100 点

3. 令和5年リハビリテーション対象者の動向

自宅退院	施設退院	転 院	緩和ケア	終 了	そ の 他	継 続 中
48%	13%	8%	1%	8%	10%	12%

地域医療連携室

課長 今西 邦之

昨年の実績は下記の通りである。対応人数、対応方法は昨年より減少もほぼ例年通りで推移していると考ええる。制度活用内の医療保険数が半減は、マイナンバーカードと保険証の紐付で、限度額・減額適用認定証の発行支援が大きく減ったためと言える。また難病の対応数の増加は、IBD 患者の増加により、指定難病申請支援が増えたことによるものである。

消化器内科が 4 名体制となり、新内視鏡センター・IBD センターの運用が開始されたことにより、地域医療連携室としても早期癌や潰瘍性大腸炎などの患者様への対応が増加すると思われる。相談専門職として支援を必要とする様々な方への相談支援に一層取り組んでいきたい。

対応実人数

	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
外来患者	1,785	1,947	1,981	2,109	2,928	2,752
入院患者	4,382	3,915	4,201	3,708	3,688	3,551
合 計	6,167	5,862	6,182	5,817	6,616	6,303

相談内容

		2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
療養支援	入転院相談	700	617	601	924	664
	入院案内	800	862	851	858	963
	受診・受療	627	783	899	951	885
	経済的問題	115	93	55	52	14
	受容・傾聴	137	86	85	120	106
	理解促進	316	369	436	453	433
	心理・社会的問題	417	527	485	408	337
	情報収集・情報提供	1,982	1,956	1,836	2,076	2,156
退院支援	方向付け	212	219	187	171	178
	施設入所調整	213	296	185	217	248
	在宅退院調整	702	805	828	815	775
	転院調整	237	195	171	251	225
	社会復帰支援	4	1	0	0	4
制度活用	高齢者福祉（介護保険）	1,195	1,150	1,211	1,121	1,093
	障害者福祉	60	45	50	57	53
	生活保護	160	117	130	101	64
	医療保険	145	146	109	103	45
	難病	28	25	20	25	56
	肝炎治療関係	13	1	8	2	3
	権利擁護（成年後見等）	12	19	6	32	17
	その他	6	2	3	1	1
その他	セカンドオピニオン	1	3	4	12	1
	がん相談	564	579	739	906	826
	苦情	2	6	5	5	3
	他院受診予約調整	200	228	251	320	360
合 計（件）		8,848	9,130	9,155	9,981	9,510

関係機関紹介入院件数（地域医療連携室対応分）

	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
高知赤十字病院	59	27	36	40	35
高知大学医学部附属病院	27	27	22	24	20
高知医療センター	26	30	21	44	33
近森病院	28	35	36	26	31
国立高知病院	22	16	12	21	13
その他医療機関	74	66	58	113	81
合 計	236	201	185	268	213

かみまち指定居宅介護支援事業所

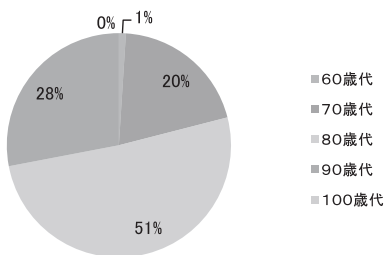
介護支援専門員 森本 都子
長野 真紀

令和5年業務報告

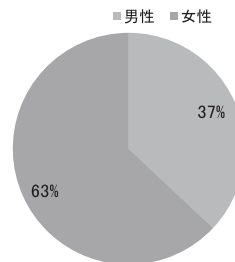
かみまち指定居宅介護支援事業所利用者（実動）数及び介護度区分

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	集計
利用者数	40	39	42	41	42	40	39	39	40	36	35	34	467
要介護1	19	17	19	19	17	16	15	15	17	16	16	17	203
要介護2	11	11	12	12	13	13	13	12	11	10	9	8	135
要介護3	5	5	5	5	7	6	6	7	8	7	7	6	74
要介護4	5	5	5	4	4	4	4	4	3	3	3	3	47
要介護5	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	6

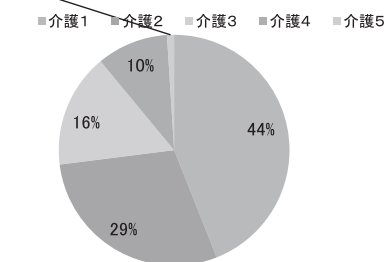
年齢別



男女比率



介護度別年間平均率



訪問看護ステーション くによし

所長 今井 美穂

訪問看護ステーション くによし 2023 度年報

		合計	R5. 01	R5. 02	R5. 03	R5. 04	R5. 05	R5. 06	R5. 07	R5. 08	R5. 09	R5. 10	R5. 11	R5. 12
訪問看護 (延べ回数)	計	3213	229	252	302	251	282	309	263	282	296	258	237	252
	男	1167	74	104	114	100	115	144	112	100	105	76	63	60
	女	2046	155	148	188	151	167	165	151	182	191	182	174	192
要支援 1	計	38	6	5	7	6	2	2	1	1	2	2	2	2
	男	16	4	3	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	22	2	2	2	2	2	2	1	1	2	2	2	2
要支援 2	計	273	16	16	17	16	21	25	27	25	25	28	28	29
	男	77	4	4	4	4	5	8	9	8	8	9	6	8
	女	196	12	12	13	12	16	17	18	17	17	19	22	21
要介護 1	計	818	91	78	86	69	82	62	58	67	67	59	50	49
	男	348	36	31	38	28	34	26	27	27	26	26	25	24
	女	470	55	47	48	41	48	36	31	40	41	33	25	25
要介護 2	計	351	12	13	24	20	25	33	34	32	31	39	42	46
	男	42	0	1	5	4	7	4	8	5	0	2	1	5
	女	309	12	12	19	16	18	29	26	27	31	37	41	41
要介護 3	計	66	16	8	4	4	7	4	4	5	3	4	4	3
	男	27	0	0	0	0	2	2	4	5	3	4	4	3
	女	39	16	8	4	4	5	2	0	0	0	0	0	0
要介護 4	計	198	8	7	6	14	18	20	27	29	11	21	14	23
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	198	8	7	6	14	18	20	27	29	11	21	14	23
要介護 5	計	0	0	0	0	0	0	0	9	7	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療保険 (延べ回数)	計	1400	75	121	156	116	122	159	108	115	149	96	90	93
	男	637	30	65	62	60	67	104	64	52	64	30	23	16
	女	763	45	56	94	56	55	55	44	62	85	66	67	77

診療情報管理委員会

診療情報管理委員会 藤田 匡自

様々な診療情報データを利用し施設基準要件の確認・院内外の統計報告・病院経営等の為の統計作成等々、診療情報管理士の業務は多岐にわたり、診療情報の開示対応も担当業務です。近年特に捜査機関（警察等）からの照会が増加しています。照会に関するこの様な記事がありましたので掲載します。（問）：捜査機関への回答が守秘義務違反になるか？（答）：刑法 134 条「正当な理由がないのに、その業務上取り扱ったことについて知り得た人の秘密を漏らしたときは、6 ヶ月以下の懲役・・・」とあるが、刑事訴訟法 197 条に「捜査について、公私の団体に照会して必要な事項の報告を求めることができる」とあるので「正当な理由」に基づく回答である（問）：捜査機関からの照会を受けたことを患者に告知すべきか？（答）：刑事訴訟法 197 条「必要があるときは、みだりにこれらに関する事項を漏らさないよう求めることができる」とあり捜査関係事項照会書にも記載されています。また「正当な理由」として児童虐待・麻薬中毒者・感染症等、法令上届け出や通告が義務つけられているものもあり、これらは秘密漏示罪の懲罰対象にはなりません。反して最近ニュースで漏洩の記事がありました。某病院職員が今後の業務の参考にしようと自分のスマホで患者の疾病の説明を撮影し SNS に投稿、消去したつमोरの患者氏名等が閲覧可能な状態になっていたとのことでした。診療情報をスマホで撮影し持ち出したり、院外で食事をしながら知人に患者とのやり取りを面白可笑しく雑談したり、SNS に載せる等々の事がないよう常に守秘義務の遵守を頭においておきたいものです。

2014 年～ 2023 年 外来延べ患者推移 診療科別（併診等含む）

診療科	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
消化器内科	17,296	16,610	16,712	16,033	18,428	20,589	18,516	20,061	20,203	21,199
循環器内科	7,940	8,264	8,967	9,267	10,640	11,366	10,671	11,468	10,902	10,552
整形外科	5919	8,587	9,821	8,757	9,152	8,966	7,826	7,938	7,531	7,126
泌尿器科	5	0	0	0	0	0	1121	3374	3,005	3,087
消化器外科	3,764	3,370	3,300	2,227	2,316	1,205	768	746	607	1236

診 療 科	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
緩和ケア内科	1,276	1,297	1,050	1,191	735	185	265	236	225	241
外 科	522	627	994	1063	247	146	138	118	110	344
放 射 線 科	0	0	0	0	0	64	94	74	66	106
神 経 内 科	1,792	1,964	1,657	1,423	1,779	1,557	1,189	1,507	1,544	1,934
内 科	1	0	46	81	0	0	402	644	340	1
内科・ペイン科	0	0	141	1615	1	0	0	0	0	0
脳 神 経 外 科	1534	1013	582	573	573	547	532	405	415	429
心臓血管外科	301	384	423	451	439	389	346	391	307	349
心 療 内 科	351	363	406	345	341	400	330	344	304	260
リウマチ科	0	0	0	0	0	0	0	297	406	366
眼 科	228	211	202	196	161	132	109	104	86	91
呼吸器内科	808	697	348	48	0	0	0	0	0	0
検 診 等	1,025	1018	848	901	847	1013	1051	935	851	856
合 計	42,762	44,405	45,497	44,171	45,659	46,559	43,358	48,650	46,902	48,177

2023 年 外来延べ患者 診療科別割合

	消化器内科	循環器内科	整形外科	泌尿器科	神経内科	消化器外科	他
患者割合	44%	22%	15%	6%	4%	3%	6%

2023 年 入院延べ患者 診療科別

	消化器内科	循環器内科	緩和ケア内科	泌尿器科	整形外科	外 科	合 計
患者数	17,892	8,139	3,188	949	721	1,170	32,059

2014 年～2023 年 一般病棟 平均在院日数

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
年間平均	20	13	21	16	12	13	14	14	15	14

2023 年 入院患者実人数 性別・年代別

年 代	0-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	100-109
女 性	1	5	12	25	76	102	215	244	113	6
男 性	8	6	18	54	83	154	218	149	28	0

2023 年 入院患者実人数 救急入院有無

救急車搬送（有）計	112	救急車搬送（無）計	1,405
救急医療入院 （緊急に入院が必要であると認めたもの）	63	救急医療入院 （緊急に入院が必要であると認めたもの）	232
予定入院	0	予定入院	444
予定外入院	49	予定外入院	729

2023 年 入院患者実人数 紹介歴有無

	消化器内科	循環器内科	整形外科	泌尿器科	外 科	緩和ケア内科
紹 介 歴 有	446	122	46	29	80	106
紹 介 歴 無	544	57	32	18	30	7

2023 年 入院患者実人数 疾患分類別

	消化器系	新生物	循環器系	損傷等	呼吸器系	内分泌系	腎尿路系	神経系	筋骨格系	他
患者数	740	304	97	69	72	56	53	18	23	85

2014 ～ 2023 年 D P C データ提出件数

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
提出件数 各様式計	1,241	1,351	1,406	1,656	2,130	1,958	1,939	1,931	1,899	2,180

2023 年 外来患者 郵便番号別（上位 40 件）

住 所	患者数	住 所	患者数
高知県高知市神田	3692	高知県高知市桜馬場	380
高知県高知市上町	2627	高知県高知市横浜新町	365
高知県高知市福井町	1377	高知県高知市本町	356
高知県高知市鴨部（丁目）	998	高知県高知市薊野西町	315
高知県高知市越前町	816	高知県高知市西久万	314
高知県高知市新屋敷	787	高知県高知市横内	303
高知県高知市東石立町	732	高知県高知市北本町	294
高知県吾川郡いの町枝川	661	高知県高知市東城山町	285
高知県高知市朝倉丙	616	高知県高知市八反町	279
高知県高知市長浜	575	高知県高知市城山町	277
高知県高知市万々	528	高知県高知市介良乙	277
高知県高知市鴨部（その他）	508	高知県高知市棧橋通	277
高知県高知市小石木町	504	高知県吾川郡いの町	275
高知県高知市石立町	487	高知県高知市春野町南ヶ丘	272
高知県高知市升形	459	高知県高知市河ノ瀬町	265
高知県高知市旭町	426	高知県高知市朝倉甲	264
高知県高知市山ノ端町	418	高知県高知市旭天神町	263
高知県高知市南万々	415	高知県高知市曙町	247
高知県高知市中万々	398	高知県高知市上本宮町	243
高知県高知市みづき	390	高知県高知市福井東町	243

2023 年 診療情報提供 紹介医療機関等一覧（上位各 25 件）

医療機関等名称（紹介先）	件数	医療機関等名称（紹介受）	件数
高知医療センター	115	高知検診クリニック	260
高知赤十字病院	71	高知医療センター	117
近森病院	64	藤戸病院	76
国立病院機構 高知病院	42	高知大学医学部附属病院	59
高知大学医学部附属病院	40	高知赤十字病院	53
藤戸病院	14	田村クリニック胃腸科内科	52
細木病院	13	福井診療所内科消化器科	46
もみのき病院	12	近森病院	45
かもだの診療所	10	国立病院機構 高知病院	44
愛宕病院	9	クリニックグリーンハウス	29
おの肛門科胃腸科外科	7	中内整形外科クリニック	28
内田脳神経外科	7	よりみつ内科消化器科	27
朝倉病院	6	くすのせクリニック	26
高知生協病院	6	塩見整形外科	23
土佐市民病院	6	かもだの診療所	21
安岡眼科	6	みちなか整形外科	20
福井診療所内科消化器科	6	玉木内科小児科クリニック	17
塩見整形外科	6	おおしお内科クリニック	17
高知高須病院	6	横田クリニック	16
井上病院	5	かわむらクリニック整形外科	15
関南病院	4	内田脳神経外科	13
みなみ在宅クリニック	4	松岡クリニック	13
福田心臓血管外科・消化器科内科	4	細木病院	12
山村病院	4	藤田クリニック	11
春野うらかクリニック	4	リハビリテーション病院 すこやかな杜	11
総計 713 件		総計 1505 件	

2014 年～ 2023 年 クリニカルインディケーター（臨床指標）

指 標 名 称	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	算出 単位	分 子	分母
退院後42日以内の再入院率	9%	11%	11%	8%	7%	8%	12%	12%	13%	9%	年	退院後42日以内の再入院件数	退院患者数
退院後42日以内の同一疾病再入院率	4%	4%	3%	2%	2%	4%	2%	7%	9%	6%	年	退院後42日以内の同一疾病再入院件数	退院患者数
退院後42日以内の同一疾病再入院率 (予定外再入院率)	—	—	—	—	—	—	—	2%	3%	2%	年	退院後42日以内の同一疾病再入院件数 (予定外再入院率)	退院患者数
死 亡 退 院 率 (一般病棟)	2%	2%	3%	3%	2%	1%	2%	2%	4%	2%	年	死亡退院患者数	退院患者数
緊急手術率	9%	9%	15%	5%	6%	14%	7%	7%	13%	14%	年	緊急手術件数	手術件数
24時間内の再手術率	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	年	24時間内の再手術件数	手術件数
サマリー2週間内作成率	100%	99%	99%	99%	99%	99%	100%	99%	99%	100%	年	サマリー2週間以内作成件数	作成件数
病床稼働率	96%	92%	81%	90%	87%	86%	92%	81%	91%	87%	年	在院患者数	年間病床数